英米語学科
日本語口頭試問　サンプル問題

アジア、バランス戦略通底

シンガポールを除く東南アジア諸国連合（ＡＳＥＡＮ）諸国は、ロシアへの経済制裁には加わっていません。加えて、２０２２年１１月の主要２０カ国・地域（Ｇ２０）サミットで議長国のインドネシアは、欧米からのロシア締め出しの圧力も報じられる中で、首脳会議からロシアを排除しませんでした。アジア太平洋経済協力会議（ＡＰＥＣ）を開いた議長国タイも同様の姿勢を貫き、ロシアの会議参加を認めました。

これらは、「グローバルサウス」に含まれるＡＳＥＡＮ諸国の、欧米とは異なるロシアへの姿勢を示していますが、ロシアの侵攻を支持しているのとは違うと私は考えます。ＡＳＥＡＮ諸国の動きを見ると、「民主主義と権威主義」という二項対立的な見方では世界の複雑さを把握しきれないことがよくわかります。ＡＳＥＡＮ諸国とは、シンガポールのような経済的先進国から、ラオスのような開発途上国までと幅が広く、政治体制も宗教も多様な国々の集まりですが、対外政策には一定の共通性も見られます。それは、特定の大国だけと近くなったり、特定の大国だけを排除したりしない、というバランス重視路線です。大国の衝突に巻き込まれるようなリスクを徹底的に避け、様々な域外国との関係を多方向的に強化するという包含的なアプローチを取っています。

安全保障面では、覇権（はけん）主義的な中国への警戒感もあり、米国の一定の関与が望まれています。一方、東南アジアと中国との経済的関係の深化はすでに所与の事実であり、政治的にも協力を深める傾向にあります。また、ロシアはベトナムの長年の友好国であることに加え、タイやインドネシアなど一部のＡＳＥＡＮ諸国との経済的関係は深まっていました。ロシアとの協力も重視されていたのです。

ただ、かつて帝国主義の犠牲となり、苦難を経て独立から経済発展の道を歩む東南アジアの国々には、「主権の尊重」は絶対的な価値であることは間違いありません。その観点からロシアのウクライナ侵攻を支持はしません。現にＧ２０でも、結果的には、ロシアのウクライナ侵攻を非難する首脳宣言を採択しました。国連でのロシア非難決議のいくつかにはベトナム、ラオス、タイも棄権しました。賛成を白、反対を黒とすると、棄権はグレーな意思表示ですが、私は東南アジアの国の棄権は「白に近いグレー」とみています。

我々と価値観を共有できる余地があり、一層経済発展を遂げて力をつけつつあるＡＳＥＡＮの国々に対し、日本は「上から目線」で臨むべきではありません。彼らの主体的な選択を尊重し、さまざまな世界的問題に共に取り組む姿勢が必要でしょう。

出典：「（耕論）大国と距離を置く国々　大庭三枝さん、オライブ・ランタウィさん、筒井清輝さん」より「アジア、バランス戦略通底（大庭三枝さん　国際政治学者）」. 朝日新聞. 2023年4月5日, 朝刊, オピニオン1, 11ページ.
承諾番号　26-1041
＊朝日新聞社に無断で転載することは禁じられています。

※ 問題文には、出題の必要に応じて変更（改行、個人名の省略）を加えた部分があります。

質問１　この記事の主旨は何ですか。簡潔に述べてください。

質問２　この記事の主旨は「〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇」ということです。この主張の根拠として、ＡＳＥＡＮ諸国とロシアとの関係を著者はどのように見ているか、簡潔に述べなさい。

質問３　２５行目に「白に近いグレー」と表現されていますが、それはこの記事ではどのような意味ですか。自分のことばで説明してください。

質問４　著者は日本とＡＳＥＡＮ諸国が価値観を共有できる余地があると考えています。それはどのような点が考えられますか。あなたの考えを理由と共に述べてください。